

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援センターはぐはぐ子ども村西都				公表日	令和 8 年 3 月 28 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		活動に応じた部屋を用意している。 2クラスの分け療育を行っている。	部屋が広く使える工夫をし環境を整えていく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		基準以上の人員を配置している。 定員に対して指導員数は手厚いが自由遊び（年少～年中）個々の遊びが多く目配りがより必要になる。年齢や特性に応じ1対1で職員を配置しているのでより良い療育ができていると思う。	現状を維持していく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		活動内容は視覚的にもわかりやすいようにカードで表示している。 着替えの籠に写真を貼ってわかり易くしている。	現状維持をしながら定期的に見直しを行い、安全面情報伝達面等の環境を整えていく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9		毎日掃除をしている。活動開始前と終了後には掃除をしている。危険防止の配慮もしている。 空気清浄機や加湿器を使用している。棚の角にカバーを付け安全面に気を付けている。 療育、サポート、遊びの用途に合わせて部屋を分けている。	心地よく過ごせる、活動できる空間作りを心がけていく。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		活動に応じた部屋がある。 クールダウンや着替えが必要な時には個別に利用できるようにしている。	急な体調不良や着替え等個別に対応する場所の確保はしてある。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8		計画案を提示し実施後には反省会を行い次回へつなげられるようにしている。	いろいろな場面で全職員で周知し、PDCAサイクルを活用している。今後も行っていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		ホームページで公開している。アンケートを無記名で実施しているため保護者も意見を伝えられるようになってきていると思う。	評価表を踏まえ改善が必要と思う案件は法人全体で取り上げ会議を行い業務改善に努めていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		職員間で話し合っている。 意見がある場合朝礼や療育後に情報共有する。 行事ごとはもちろんだが普段から皆の意見を取り入れ業務改善している。	職員の意見等を取り上げてもらっているので今後も改善に努めていきたい。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	1	任意なので検討中。	第三者評価はしていないが外部からの意見があった場合は検討、改善を行っていく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		ケース会議で講義や研修報告をしている。研修に参加している。 法人内研修は月に一度、社外研修も行っている。 いろいろな研修に参加したり参加した職員が内部に伝達する機会も設けている。		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		ホームページに掲載している。 見学時説明を行っている。 職員が周知できるようになっている。	
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7		定期的に行っている。保護者と面談し保護者のニーズや職員の話し合い療法士の助言などを分析したなかで支援計画を作成している。	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		児発管が現在の子どもの様子を都度共有し伝えてくれているため情報の共有が細かに行っていると 思う。子どもの日ごろの様子を聞き取られた上で 計画を立てている。児発管、療法士、保育士等す べての職員が参画し多方面からの意見、助言を取 り入れ考慮した検討をしている。	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		毎日の記録用紙と一緒に支援計画がファイルに 入っており支援に当たる前に目標を確認して療育 している。 療育後振り返りもし次回の療育に生かしている。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		毎日の記録を行っている。 日々の研鑽に合わせ作業療法士、理学療法士の観 察助言も組み込み状況を確認している。	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		個別支援計画に揭示されているので支援内容がよ くわかる。職員は支援前に熟知して療育をしてい る。	これからも保護者のニーズ、利用者に 寄り添った支援計画に努めていく。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		支援計画に沿って記録を行っている。 数か月ごとに見直す活動もありみんなで話し合っ ている。	意見の出しやすい環境で療法士の意 見も取り入れながら立案している。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		朝礼で情報を共有し共通理解をしている。 サーキットは毎月ステップアップし図り定期的に 全体の見直しもしている。時間がある時は集団遊 びを取り入れるなどして工夫している。	利用者を観察し楽しく活動できること を前提に固定化しないよう工夫してい る。サーキット以外にも合奏曲、制作 等季節を考慮して変えている。
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8		支援計画をもとに集団活動ではルールがあるもの 個別活動では適宜組み合わせる支援している。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		朝礼で活動内容や利用児の支援について共有して いる。 新たに利用する児の情報は事前に聞きどのよう に関わればよいか話し合いもしている。朝礼で共通 理解をし、療育後振り返りをしたり無理のない支 援を心掛けている。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。	9		毎日の記録をしながら振り返りをしている。行事 などの後はその日に振り返り気づいた点を話し 合っている。 児発管からのアドバイスももらっている。 施設長も交えて情報共有を行うことで利用児の様 子や気づきを共有できていると思う。 記録時に気づいた点を話し合っている。	当日のみならず次の利用時に前回の様 子などを再確認して共有している。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		支援計画をもとに記録している。記録を読み返し たり専門家の意見も取り入れたりと検証・改善に つなげている。	
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		定期的にモニタリングを行って見直しをしてい る。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
関係機関や保護者との連携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		担当者会には当事業所の児童発達支援管理者が会議に参画している。	
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		地域の医療機関にお願いし内科検診を行っている。	
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		担当者会の中で保育園こども園幼稚園等の情報共有・相互理解をしている。	
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		当児童発達支援管理者が担当者会にて情報共有をしている。	
	28 (28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	7	1	地域基幹センターが主催で行っている連絡協議会に参加している。同法人内で他にも支援センターがあるので交流・研修もしている。	
	29 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	8		OTやPTが月に数回訪問し監察指導、助言をもらっている。 外部研修には参加し資質向上に役立っている。	
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。	7	1	児童発達支援管理者が参加している。	
	31 (31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6	1	利用児ほぼ全員が保育園からの通いである。利用者が併行利用なので保育園、幼稚園等の交流の場になっている。	
	33 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		児童発達支援管理者が主に保護者との連絡をメールや電話にて行っている。3か月に一度個人にお便りを出して伝えている。	
保護者への説明等	34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8		ペアレントトレーニングは希望者を募り、定期的に開催している。 見学や面談など迅速に対応している。	
	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		契約時に説明をしている。わかり易く伝えることを心掛け契約時に丁寧に伝えている。運営規定は玄関に掲示している。	
	36 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		利用児や保護者の意思を尊重しながら行っている。	
	37 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8		面談をし児童発達支援計画を見ながら細かに内容説明をしている。	
	38 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		児童発達支援管理者が主に保護者と連絡を取り、申し出がある場合は迅速に対応している。	
	39 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7		イベントを設けている。 年に1度利用児と家族の交流を開催している。	年に2回交流の場を設けている。月1回見学をし交流できる場を設けることを検討している。
	40 こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		迅速に対応している。	
	41 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	1	毎月園だより、3か月毎に（個人）お便りを発行している。	
	42 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		職員には個人情報の取扱いに留意するよう共通理解をしている。より厳重に取り扱っていく。	
	43 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		メールやラインで連絡することで文字に起こしわかり易くしている。	
44 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	1	実習生は受け入れている。	地域住民を含む行事は出来ていないが検討している。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	毎月洪水・地震・家事・不審者等いろいろな場面を想定して避難訓練を行っている。 職員は毎月消火訓練を行い水消火器を使った訓練も行っている。マニュアルは策定している。発生を想定した訓練をし、お便りにて訓練の周知もしている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	洪水訓練では年に2回近くの避難所へ移動する訓練をしている。 定期的に避難訓練を行っている。	定期的に非常災害等の避難訓練をしている。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	契約時に聞き取りを行い情報共有をしている。 熱性けいれん等も共有し脳下体温計で図るようにしている。 職員全体で情報を共有しているがいざ服用しないといけない時にとっさに動けるか不安になる。	職員間の共有もしており発生した場合の動向も研修をしている。 今後訓練も取り入れたい。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	契約時に聞き取りを行い情報共有をしている。 アレルギーがある場合は医師の指示書に基づいた対処法を保護者に聞いて職員間で共有している	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	ケース会議に読み合わせをしている。計画に沿って読み合わせ共通理解を行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	契約時に周知している。	契約時に周知連携を図っているが検討、見直しを行っている。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	発生後ヒヤリハットを記入し閲覧して今後の対策も共有している。 記録にも残しているため改めて気を付けようと思えることができる。	大きな事故に繋がらないよう小さなうちに発見・報告・職員に周知し検討、危機管理に努めていく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	研修に参加した職員がケース会議で報告している。 研修には各事業所一人代表で参加し会議で皆に報告し情報共有をする。	虐待の早期発見早期対応に努める。風通しを良くし発言しやすい環境を整えていく。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8	年度初めに身体拘束について理解したうえで支援に携わっている。	年度末、年度初めに行い共通理解を言っている。	